

感情・人格心理学

《担当者名》百々 尚美 (ndodo@hoku-iryu-u.ac.jp)

【概要】

2年次に学習した「感情・人格心理学」の知識を前提とし、「感情（情動）」のメカニズムと機能に焦点を絞って専門的知識を深める科目である。

感情の発生機序に関する古典的・現代的理論、脳神経科学的基盤、認知（記憶・判断）との相互作用、そして臨床実践に不可欠な感情調節や共感のメカニズムについて、最新の知見を含めて学習する。

本講義は、公認心理師試験出題基準（ブループリント）の大項目「感情及び人格」「脳・神経の働き」「健康・医療に関する心理学」等に対応する。

【学修目標】

感情心理学に関する理論および臨床の応用に関する専門的知識を習得する。

感情に関する主要な理論（起源説、基本感情説、次元説、構成主義など）と生理学的機序を説明できる。

感情が認知（記憶、判断、意思決定）や行動に及ぼす影響について、具体的なモデルを用いて説明できる。

感情調節のメカニズムを理解し、メンタルヘルスや社会的適応との関連を考察できる。

ポジティブ心理学や感情知性（EQ）の視点を含め、感情と人格の関連を統合的に理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感情心理学の導入と「感情リテラシー」	感情・情動・気分の定義と違い、感情リテラシーとラベリングによる脳科学的効果について学習する。	百々尚美
2	感情の古典的理論と身体性	ジェームズ＝ラング説、キャノン＝バード説、情動二要因理論、身体反応と感情体験の因果関係について学習する。	百々尚美
3	基本感情説と進化論的アプローチ	ダーウィンの進化論的視点、プルチックの「感情の輪」モデル、基本感情と混合感情について学習する。	百々尚美
4	表情と非言語コミュニケーション	エクマンの神経-文化説、表示規則、微表情、表情の普遍性と文化差について学習する。	百々尚美
5	感情の次元説と核心的情動	ラッセルの円環モデル（覚醒-快）、核心的情動（Core Affect）の概念と臨床応用について学習する。	百々尚美
6	感情の神経科学：恐怖と扁桃体	ルドゥーの二経路説（低次・高次回路）、扁桃体の役割、恐怖条件づけと消去学習について学習する。	百々尚美
7	感情の神経科学：身体マーカー説と意思決定	ダマシオのソマティック・マーカー仮説、前頭葉機能と意思決定、アイオワ・ギャンプリング課題について学習する。	百々尚美
8	感情の神経科学：哺乳類の感情システム	バンクセップの感情神経科学、7つの基本感情システム（SEEKING, RAGE等）、動物の感情について学習する。	百々尚美
9	新しい感情理論：構成主義的感情理論	バレットの構成主義的感情理論、脳の予測的処理と内受容感覚、社会的構成主義との対比について学習する。	百々尚美
10	感情と認知の相互作用：評価と選好	ザイアンスの単純接触効果、ラザルスの認知的評価説、感情発生における認知の役割について学習する。	百々尚美
11	感情と認知の相互作用：記憶と判断	パウアーの感情ネットワークモデル、気分一致効果、フォーガスの感情混入モデル（AIM）について学習する。	百々尚美
12	感情調節（Emotion Regulation）	グロスの感情調節プロセスモデル、認知的再評価と表出抑制の違い、メンタルヘルスへの影響について学習する。	百々尚美
13	対人援助における感情：共感とバーンアウト	デイヴィスの多次元共感モデル、感情労働、共感疲労とバーンアウトの予防について学習する。	百々尚美
14	感情の発達とアタッチメント	アタッチメント理論と安全基地、マルトリートメントの影響、愛着障害と発達障害の鑑別について学習する。	百々尚美

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
15	感情・人格・ウェルビーイング	ポジティブ心理学（拡張-形成理論）、感情知性（EQ）、人格特性（Big Five）と感情の関連について学習する。	百々尚美

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

平常点（30%）、および期末試験（70%）を合計して評価する。

- ・平常点：Google Classroom/Formsを用いた前回の振り返り小テスト（20%）と講義後のリアクションペーパー（10%）により評価する。小テストとリアクションペーパーは出席の確認も兼ねている。
- ・期末試験：公認心理師国家試験に準拠したマークシート方式（多肢選択式）で行う。

【教科書】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

感情心理学 朝倉書房 2007年

感情と心理学 発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開 北大路書房 2002年

感情心理学・入門 有斐閣 2010年

【備考】

1. 学習教材（授業資料）の配信、学習課題の提示
 - ・ 授業資料の配付はGoogle Classroomを利用して学習課題を提示する
2. 授業に関する学生相互の意見交換やグループ学習の実践
 - ・ 学生相互の意見交換を目的にGoogle Classroomを活用する
3. 任意の時間での授業の受講
 - ・ Google Classroomを利用したオンデマンド型授業、オンライン授業を行う場合もある
4. 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
 - ・ Google Formを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する
5. 欠席回数について
 - ・ 各自で責任を持って管理すること（欠席回数についての問い合わせには原則応じない）。
6. 課題について
 - ・ 課題の提出締切を厳守すること（遅延の場合は課題の評価は減じられる）
 - ・ 課題内容において、剽窃などの不正がなされることは極めて低劣な行為であり、いかなる事情があろうとも忌避されるべきものである。そのような不正が発覚した場合、あるいは強く疑われる場合には、以降、その学生からの提出物は評価の対象から除外する。

【学修の準備】

1. 予習について
 - ・ シラバスの内容を参考に、参考書および講義資料を熟読し、講義内容を予習すること（80分）
2. 復習について
 - ・ 講義内容を見直し、不明な点は関連書籍をもとに確認し、理解を深めておくこと（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3 . 心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を修得している。

DP4 . 公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としての医療・福祉・教育での実務経験を活かし、臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。